

白山中学校 第1学年 「道徳」 シラバス

教科の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

評価の視点・方法

道徳科における、

- ①学習状況
- ②道徳性に係る成長の様子

- ・個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価
- ・他の生徒との比較による評価ではなく、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価

- 発言、道徳ノートによる評価
- 教師の観察による評価
- 生徒自身による自己評価

特色ある学習方法

- ・内容項目に応じて、チームティーチングやゲストティーチャーを活用します。
- ・職員全体で道徳性を育むために、時期に応じて、学年職員が道徳の授業をするローテーション道徳の実施をします。
- ・「考え、議論する道徳」が展開されるよう発問や授業形態を工夫します。

	主な学習項目	学習のねらい
一 学 期	希望と勇気, 克己と強い意志 友情, 信頼 思いやり, 感謝	目標に向かって、希望と勇気をもって着実にやり抜こうとする実践意欲を育てる。 互いに信頼し高め合う友情の大切さを理解し、いっそう友達を大切にしようとする態度を育てる。 日々の生活の中で自分を支えてくれている多くの善意や思いやりに気づき、自分の感謝の気持ちを素直に表そうとする態度を育てる。
二 学 期	よりよい学校生活, 集団生活の充実 社会参画, 公共の精神 我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度	学級や学校の一員として自らの役割と責任を自覚し、協力し合って学校生活を充実させようとする態度を育てる。 公德心及び社会連帯の自覚を高め、一人ひとりが協力し、よりよい社会を実現していこうとする実践意欲を育てる。 日本人としての自覚をもって我が国の優れた文化を継承し、その創造に貢献しようとする態度を育てる。
三 学 期	生命の尊さ 真理の探究, 創造 よりよく生きる喜び	多くの人々の支えによって生きていると気付くことで、誰もがかけがえのない存在であると理解し、互いの存在を大切にしようとする実践意欲を育む。 現実を謙虚に受け止め、努力と工夫を重ね、理想に向かって人生を切り拓きたくましく生きようとする実践意欲を育てる。 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きる喜びを見出そうとする心情を育む。